

ビームTMパラタスTM箱粒剤

■種類名：スピネトラム・トリフルメゾピリム・トリシクラゾール粒剤
■有効成分：スピネトラム-----0.75%
トリフルメゾピリム-----0.75%
トリシクラゾール-----4.0%

TM コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標

■登録番号：第24717号(コルテバ・ジャパン登録)
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：2023.01.25
■性状：淡黄色～淡褐色細粒
■有効年限：3年
■包装：1kg×12袋

【特長】

- ウンカ類に対して優れた効果と長期残効性を有する。
- また、既存薬剤に感受性の低下したウンカ類にも高い効果を示す。
- チョウ目害虫に高い殺虫効果を示し、速やかに摂食阻害作用を発揮することで食害を抑制する。
- トリシクラゾールを含有し、いもち病に高い効果を示す。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツトムシ ニカメイチュウ いもち病	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り50～100g)			
	フタオビコヤガ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り50g	移植当日		
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り50～100g)			

スピネトラムを含む 農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む 農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む 農薬の総使用回数
3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田では2回以内)	1回	4回以内 (育苗箱への処理は1回以内、 本田では3回以内)

【効果・薬害等の注意】

- 本剤の所定量をそのまま手、又は散粒機で育苗箱中の苗の上から均一に散布すること。なお、葉に付着した薬剤は、軽く払い落とすこと。
- 育苗箱の表面が乾燥していて苗を田植機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落とす後軽く灌水すること。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 軟弱徒長苗、老化苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- 稲苗葉がぬれていると薬害を生じやすいので、散布直前の灌水はしないこと。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合、あるいは移植後極端な高温(30℃以上)が続くと予測される場合は、薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。移植後は、直ちに入水し、水深2～3cm程度に保ち、極端な浅水や深水は薬害の原因となるのでさけること。
- 深植では薬害を生じやすいので深植にならないように注意すること。
- 本剤の処理後、時に葉の黄化や葉先枯れを認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさげ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。